

モーゼス・マイモニデスの医学的著作概観

泉 彪之助

日本医史学雑誌第四十七巻第二号 平成十二年六月二十二日受付
平成十三年六月二十日発行 平成十三年二月 十七日受理

〔要旨〕マイモニデスの医学的著作について、従来の研究者の記載を総括し、その全体像を把握しようとした。マイモニデスの医学的著作は、十種があるとされているが、その一つ「交接について」は、長短二編から成っている。マイヤーホーフは、イブン・アビ・ウサイビアの記載によつてのみ知られていた「薬名集覧」の原本を、イスタンブールのアヤ・ソフィア寺院蔵書中に発見した。著者は、マイモニデスの医学的著作の邦訳名試案を提唱した。「医師の祈り」を含む、いくつかの医学的、宗教的著作が誤つてマイモニデスのものとされている。マイモニデスは、医学的著作をヘブライ文字を使ってアラビア語で書いた。

キーワード——マイモニデス、医学的著作、ユダヤ医学、アラブ医学

著者は先に中世のユダヤ人思想家・医学者モーゼス・マイモニデスの生涯について報告した^①。今回は、マイモニデスの医学的著作を、各研究者の記載を総括して、その全体像を把握したい。個々の著作については、稿を改めて発表する。

このような検討を行う理由は、次の通りである。

(一) 最近のほとんどの欧米論文は、マイモニデスの医学的著作についてロスナーの記載を引用しているが、研究史をたどって見ると各研究者の記載はかならずしもロスナーの通りではない。また「交接について」(以下著作名は著者が選んだ邦訳名で示す。この邦訳名は、文中では「」で示し、論文の後段で一括記載する。文中()で囲ったものは、その部の外国語の邦訳である)のクローナーのドイツ語訳とロスナーの英訳と内容がかなり異なっているように、ある名前で表わされる著作の範囲も研究者によって同じではない。これらの点を明確にする必要を感じた。

(二) 著作の名称が、研究者によって異なっている。マイモニデスの著作を表すには、アラビア語名、ラテン語訳名、ヘブライ語訳名、英語・ドイツ語・フランス語などの現代語訳名があるが、その内容もまちまちである。一般に流布している英訳名が、ある研究者によって正当性に疑念をもたれている場合があり、またマイモニデス自身のものでないと思われる著作名を英訳者が用い、それがマイモニデス伝記執筆者に引用されている例がある。マイモニデス著作は手稿あるいは写本として存在し、刊本がないので、本来の共通名称がありうるかどうかの問題もあるが、訳名を整理することがある程度必要であろう。

以下の記載の邦訳で、著者(泉)のアラビア語、ラテン語、ヘブライ語の能力が低いので、その解説・邦訳に誤りがあるかも知れない。また単語の意味が不明であった場合は、原語をそのまま記載した。

一、マイモニデスの医学的著作の従来の記載

本来はマイモニデス著書手稿、写本等を検討するべきだが、著者にそうした便宜と能力がないので、従来の研究者の記載によって論ずる。記載の背景として、各研究者の経歴をのべた。

(一) イブン・アビ・ウサイビヤ (Ibn Abi Usaybia) の記載⁽⁸⁾

マイモニデスについて、すでに一三世紀にイブン・アビ・ウサイビヤ、イブナル・キフティ (Ibn al-Qifti)⁽⁹⁾ が記載している。イブン・アン・ナディーム (Ibn al-Nadim) にも、記載があるようである。⁽¹⁰⁾ 著者はイブン・アビ・ウサイビヤのみ入手できたので、その内容をのべる。

著者が入手したマイモニデスの医学的著作の最も古い記載は、イブン・アビ・ウサイビヤのアラブ医学史 (『医師の階層についての情報の泉』一四〇一年、復刻第三版、一九八一年) である。パーセラは、マイモニデスとその息子アブラハムの項全文の英訳を掲載しており、詳しくはそれを参照されたい。⁽⁵⁾

イブン・アビ・ウサイビヤの経歴は前稿でのべたが、一部追加する。ダマスカスに出生、イブン・バイタル (Ibn al-Baitar, 注二) から学び、アブドゥッラティーフ (Abd al-Latif, バグダッド在住の著名な医師) と交流があった。イスラム暦六三四年 (西暦一二三六年) にカイロの病院に就職、翌年首長に仕えるためシリアに移住、シリアでイスラム暦六六八年 (西暦一二六九年) に七〇歳以上の高齢で死去した。⁽¹¹⁾ カイロの病院では、マイモニデスの息子アブラハムと同僚であった。

イブン・アビ・ウサイビヤの著書のマイモニデスの項は、同書第十四章の三十五番目 (復刻本下巻一九四—一九五頁) にあり (写真1)、マイモニデスの息子アブラハムが三十六番目である (写真2)。三十五番目の項目は、al-Rais Abd 'Amran Misa bun ツ・ライース・ムーサ (首長あるいは指導者のモーゼ) となっているが、本文の最初に al-Rais Abd 'Amran Misa bun Maiman al-Qarbi (アッ・ライース・アブ・アムラン・ムーサ・ブン・マイムーン・アル・クールトビ) とアラブ名フルネームが出ており、マイモニデスであることが確認される (写真1)。この項後半に著書名が列記されており (写真2)、著者 (泉) によるアラビア語名の読解と日本語訳、パーセラによる英訳を挙げる。⁽⁵⁾ (著作名は、アラビア語ローマ字表記、邦訳、パーセラの英訳の順で記載)

(一) al-Kutub Ikhisar al-Kutub al-Sittata 'Ashara Ji-Jalmds

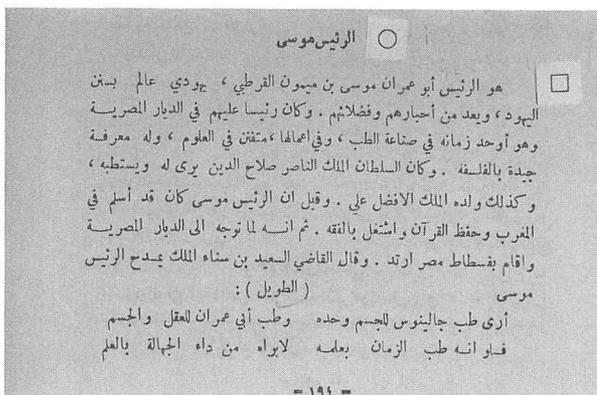


写真 1 イブン・アビ・ウサイビヤ『アラブ医学史』マイモニデスの項(O)。□印は、アラブ名フルネームが記載されている箇所

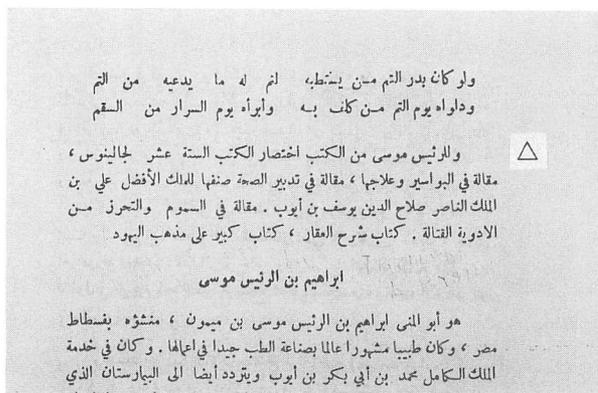


写真 2 同書マイモニデスの項。著書名が列記されている部分(△)。次項は、マイモニデスの息子アブラム

(ガレノスの十六の書物を要約した書物(複数))
 The extracts of the sixteen books of Galen

(2) Magāla fī al-Bawasir wa-'Ilajhā

(痔疾とその治療に関する論説)

A treatise on hemorrhoids and their treatment

(3) *Maḡalā fī Tadbīr al-Siḥa Sanafahā al-Malik al-Afdal 'Alī bun al-Malik al-Nāsr Salāh al-Dīn Yūsuf bun Ayyūb*

(勝利王サラーフ・アッ・ディーン・ユースフ・ブン・アイユーブ 《サラディン》の息子アル・アフダル・アリー王のためになされた健康の管理についての論説)

A treatise on the regimen of health compiled for al-Malik al-Afdal Ali ibn al-Malik al-Nasir Salah al-Din Yusuf ibn Ayyub

(4) *Maḡalā fī al-Sumūn wa-al-Mutaharrāz min al-Adwiyā al-Qatāla*
(毒と 致死的な薬から解放されることについての論説)

A treatise on poisons and protection against lethal drugs

(5) *Kitāb Sharāḥ al-'Aqqār*
(薬を説明する本)

A book in explanation of drugs

(6) *Kitāb Kabīr 'ala Madhhab al-Yahūdī*

(ユダヤ人の思想に関する大著)

A large book on the religion of the Jews

(1)は「ガレノス著書抜粋」を示すものと思われるが、あるいは「モーゼス・マイモニデスの医学箴言集」も含まれるのかも知れない。後に見るようにフリーデンウオードは、「モーゼス・マイモニデスの医学箴言集」を(ガレノスの医学箴言集)と呼んでいる。イブン・アビ・ウサイビヤの書の本文には、マイモニデスの著書の内容についての説明はない。

(6)は医学以外の業績と思われるが、詳しいことは書かれていない。

(二) ヴェステンフェルト (Wüstenfeld, Ferdinand) の記載⁽¹⁾

ヴェステンフェルトと次項のルクレールは、十九世紀の卓越した原典研究者である。二人の著書によって、アラブ医学研究が始まったといつても過言ではない。その業績は、前稿でも引用した。(著作名はラテン語とドイツ語)

- (1) Tractatus de regimine sanitatis, für den Ägyptischen Sultan el-Malik el-Afdhal, Sohn des Salah ed-Din, geschrieben (サラティーンの子、エジプト王アル・アフダルのために書かれた健康管理の方法)
- (2) Aphorismi medici, aus Galenus Schriften (ガレノスの著書からの医学箴言)
- (3) Commentarius in Aphorismos Hippocratis (ヒポクラテスの箴言注解)
- (4) Liber inventi, medicinischen und moralischen Inhalts (医学と倫理的 content の、発見の本)
- (5) Tractatus de Haemorrhoidibus (痔疾の治療法)
- (6) Tractatus de cura corum, qui a venenatis animalibus puncti sunt (動物の毒に刺された人の心臓の治療法)
- (7) De causis et indiciis morborum (病気の原因と徴候)
- (8) Succincta expositio artis medendi Galeni (ガレノスの治療技術簡明釈義)
- (9) Canones de medicina practica (実践医学の規範)
- (10) De morbo regis Aegypti (エジプト王の病気について)
- (11) De Asthmate (喘息について)
- (12) De Coitu (交接について)
- (13) De Cibo et Alimento (栄養と食物について)

- (14) Epistolae duae de rebus medicis (医学的事象についての二通の手紙)
- (15) Epistola de diaeta (食事療法についての手紙)
- (16) Commentarius seu potius versio Ibn Sinae Hebraica (イブン・スィーナの注解あるいはむしろヘブライ語訳)

(三) ルクロール (Leclerc, Lucien) の記載¹³⁾

(著作名フランス語)

- (1) Commentaire des Aphorismes d'Hippocrate (ヒポクラテスの箴言注解)
- (2) Aphorismes de Maimonide (マイモニデスの箴言)
- (3) Résumé des écrites de Galien (ガレノス著書抜粋)
- (4) Lettre sur l'Hygiène (衛生についての手紙)
- (5) De l'Asthme (喘息について)
- (6) Des hémorrhoides (痔疾について)
- (7) Du Coit (交接について)
- (8) Des Venins et des Poisons (蛇毒と毒)
- (9) Traité des Drogues (薬剂論)
- (10) (一) Des aliments interdits, (二) De cibis vetitis (禁じられた食物について)
- (11) Traduction d'Avicenne (アビセンナ翻訳)

前稿でのべたように、ルクロールはヴェステンフェルトの記載は同じ本の別名を別の著書としているとし、またこの

(11)はマイモニデスの著書であることが疑わしいと書いている。

(四) シュタインシュナイダー (Steinschneider, Moritz) の記載⁽¹⁴⁾

シュタインシュナイダーは、一九世紀から二〇世紀初頭へかけての優れた文献学者である。その著書はラテン語、ヘブライ語などへの古典的翻訳を対象としたもので、マイモニデスの著書四編を挙げているに過ぎないが、ラテン語訳名はもつとも信頼できると思われるので記載する。ただしバーセラが検討している手稿を見ると、著作ラテン訳名は、題名というより内容を説明する覚書であるようにも見える。標準とされるラテン訳名があるかどうか不明である。リーボウイツ (Leibowitz, J.O.) は、マイモニデスの著書名は、しばしば最初のパラグラフ・序文・本文前につけられた書簡の語句から取られていると言っている。⁽¹⁵⁾ (著作名ラテン語)

(一) Aphorismi (箴言)

(2) Tractatus contra passionem asthmatis (喘息発作に対する処置)

(3) Tractatus Rabbi Moysi de Reginine sanitatis ad soldanum regem (スルタンへのラビ・モーゼの健康管理法)

(4) de Causis accidentium apparentium domino et magnifico soldano etc. (支配者であり偉大なるスルタンに現れた症状の原因について)

(五) フリーデンウォール (Friedenwald, Harry) の記載⁽¹²⁾

フリーデンウォールについては前稿でのべ、また公刊された伝記があるので説明は省略する。リーボウイツによれば、前稿でのべたフリーデンウォールのユダヤ医学史料・書籍収集は、イスラエルのヘブライ大学ハダサ医学学校に寄贈され、そこで保存されているという。⁽¹⁵⁾

(一) the Aphorisms according to Galen (ガレノスによる箴言)

これは「ガレノス著書抜粹」ではなく、「モーゼス・マイモニデスの医学箴言集」である。

- (2) a commentary on the Aphorisms of Hippocrates (ヒポクラテスの箴言注解)
- (3) on Poisons and Antidotes (毒と解毒剤)
- (4) the Regimen Sanitatis (健康の保ち方)
- (5) (the tract) (小冊子)

フリーデンウォードはこの書の書名を挙げていないが、「症状の原因について」を示している。

- (9) a special tract on hemorrhoids (痔疾についての特別な小冊子)
- (7) on sexual medicine and hygiene (性医学と衛生について)
- (8) on asthma (喘息について)
- (6) Glossary of Drugnames (薬名集覧)

「ガレノス著書抜粹」は挙げられていない。

さらにフリーデンウォードは、次のマイモニデス著書のラテン語訳六編を含む手稿を入手したとしている。(著作名ラテン語)

- (a) De Causis Accidentium (症状(または発作)の原因について) (右記の(5)にあたる)
- (b) De Venenis (毒について) (同じく(3))
- (c) De Curatione Emorrhoidarum (痔疾の治療について) (同じく(6))
- (d) De Coitu (交接について) (同じく(7))
- (e) De Asthmate (喘息について) (同じく(8))
- (f) De Regimen Sanitatis (健康管理について) (同じく(4))

(六) バーセラ (Bar-Sela, Ariel) の記載⁽⁵⁾

最近の論文で、もっとも精密なものと思われたバーセラの記載を挙げる。

著者は前稿で、マイモニデスの業績一〇編としたが、バーセラや他の著者は、(4)は長短二編あるとしており、一〇種一一編とするべきかも知れない。(著作名はアラビア語—その英訳)

- (1) Al-Mukhtasarât—The Extracts (抜粋)
- (2) Fusûl Mûsâ fi al-Tibb—The Medical Aphorisms of Moses (モーゼスの医学箴言集)
- (3) Sharh Fusûl Abuqrât—A Commentary on the Aphorisms of Hippocrates (ヒポクラテスの箴言注解)
- (4) Fi al-Jimâ'a—On Coitus (交接について)
- (5) Fi al-Buwasir—On Hemorrhoids (痔疾について)
- (6) Magalah fi al-Rabû—A Discourse on Asthma (喘息についての論説)
- (7) Kitâb al-Sunnân wa-al-Mutaharriz min al-Adwiyah al Qittalah—A Book on Poisons and the Protection Against Lethal Drugs (毒物 致死的な薬に対する予防について)の書物)
- (8) Sharh Asmâ' al-'Uqgar—A Commentary on the Names of Drugs (薬名注解)
- (9) Fi Tadbir al-Sihah—On the Regimen of Health (健康の保ち方について)
- (10) Maqâlah fi Bayân Bur'd al-'A'rad wa-al-Jawab'anhâ—A Treatise in Elucidation of Some Accidents and the Response to it (発作とその反応の解明に関する論説)

バーセラはこれらの著述に関連して、アラビア語手稿四種、ヘブライ語手稿六種、ラテン語手稿四種、ラテン語刊本一種を挙げてゐる。

(七) ロスナー (Rosner, Fred) の記載とヘブライ語訳名、アラビア語通称

前稿で、マイモニデスの医学的著作の分類はロスナーに従った。

ロスナーは、アメリカの代表的なマイモニデス研究者で、ニューヨークに在住、クイーンズ・ジェネラル病院、ブルックリン・マイモニデス病院等に勤務。マイモニデスの医学的著作は、最近はロスナーの分類が標準となっているので、前稿に引き続き再掲する。バーセラの分類は、本質的にはロスナーと同じである。

ガーシェンフェルド (Gershenfeld, Louis) の論文⁽¹⁶⁾やその他の文献に現れたヘブライ語訳名(へ)、アラビア語通称(ア通) もここに記載した。

- (一) Extracts from Galen or The Art of Cure (ガレノス抜粋あるいは治療の技術)
- (二) The Commentary on the Aphorisms of Hippocrates (ヒポクラテスの箴言注解)
- (三) The Medical Aphorisms of Moses Maimonides (モーゼス・マイモニデスの医学箴言)
 - (く) Pirke Moshe (モーゼの数章¹ またはモーゼの文書)
 - (4) Treatise on Hemorrhoids (痔疾についての論説)
 - (く) Ha-na'amar bi-refu'at ha-tehorin (痔疾の治療についての論文)⁽¹⁶⁾
 - (5) Treatise on Sexual Intercourse (交接論)
 - (く) Ma'amar 'al ribbui ha-tashmish (交接の論争²に関する論文) or Ma-amar ha-mishgal (交接の論文)
 - (6) Treatise on Asthma (哮喘論)
 - (く) Sefer Hagazereth (體感の本) or Sefer Hamis'adin (mis'adinの本)⁽¹⁷⁾
 - (7) Treatise on Poisons and Their Antidotes (毒と解毒剤についての論説)

- (く) Ha ma'amar ha-nikbad (nikbad の論文) or Ha-ma'amar beter'iaq (ベリヤカ...についての論文)
 (ト) Ris'ala al-fadiliyya (fadiliyya の論文)⁽¹⁹⁾
 (8) The Regimen of Health (健康の保ち方)
 (9) The Discourse on the Explanation of Fits (発作の説明に...の論説) / Concerning the Causes of Fits (発作の原因に...の論説) or Medical Answers (Responsa) (医学質疑集 (レスポンス))
 (く) Teshuvot al Sheayloth Peratyoth (answers to specific questions) (特別な疑問への答え)⁽²⁰⁾
 (こ) Ma'amar Ha-Hakra'ah (Hakra'ah の論文)
 (10) The Glossary of Drug Names (薬名集覧)

二、著者が入手したマイモニデスの医学的著作の現代語訳

ここでは、医学的著作の現代語訳と著作本文が含まれた研究書を挙げる。

(一) 英訳

- (1) Moses Ben Maimon (Maimonides), translated by Gordon, H.L.: The Preservation of Youth, Philosophical Library, 1958 (青春の維持)⁽⁶⁾

この書の内容は「健康の保ち方」で、書名“The Preservation of Youth”は訳者ゴードンがつけたものである。この訳書は、直接アラビア語原典から訳したとされているが使用したテキストを明記していないなどの問題があり、医学史的資料として充分なものではない。

- (2) Moses Maimonides, ed. by Gorlin, M.: Maimonides “Sexual Intercourse”, Rambash Publishing Co., 1961 (マイモニデスの交接論)

この書につけられた解説は周辺の種々の問題を分析しており、学問的に高い内容ではないが、ある意味で興味深い。

(c) Moses Maimonides, transl. and ed. by Muntner, S.: *The Medical Writings of Moses Maimonides*, Vol. I, *Treatise on Asthma*. J.B. Lippincott Co., 1963 (『優良どころの論説』)

ムントナー (Muntner, Sussman) はイスラエルのマイモニダス研究者で、多くの訳書、論文がある。訳者は、英訳に先立ってマイモニダスの医学的著作数編のヘブライ語訳を公刊している。

(4) Ariel Bar-Sela et al.: *Moses Maimonides' Two Treatises on the Regimen of Health*, *Trans. Am. Philosoph. Soc. New Series* 54(4): 3-50, 1963 (モーゼス・マイモニダスの「健康の保ち方」二編の論説)⁽⁶⁾

この論文は「マイモニダスの著作二編」「健康の保ち方」「症状の原因について」の訳を含む。何人かの研究者がこの業績を称賛している。

(5) Moses Maimonides, transl. and ed. by Muntner, S.: *The Medical Writings of Moses Maimonides*, Vol. II, *Treatise on Poisons and Their Antidotes*. J.B. Lippincott Co., 1966 (毒と解毒剤についての論説)

ヘブライ文字を用いたアラビア語で書かれた原本の写真版を含む。後にのべるように、この言語をユダヤ・アラビア語と呼ぶことは一般的だが、この写真版では Judeo-arabic と書かれている。

(6) Moses Maimonides, transl. and ed. by Rosner, F. & Muntner, S.: *The Medical Writings of Moses Maimonides*, Vol. III, *Treatise on Hemorrhoids. Medical Answers (Responsa)*. J.B. Lippincott Co., 1969 (痔疾についての論説・医学質疑集 (レスポンサ))

医学質疑集 (レスポンサ) は、「症状の原因について」と同じ論文の別名である。

(7) Moses Maimonides, transl. and ed. by Rosner, F. & Muntner, S.: *The Medical Aphorisms of Moses Maimonides*. Vols. I & II. KTAV Publ. House and Yeshiva University Press, 1973 (モーゼス・マイモニダスの

医学箴言集⁽²¹⁾

(∞) Leibowitz, J.O. and Marcus, S. (ed): *Moses Maimonides on the Causes of Symptoms*, Univ. Cal. Press, 1974 (モーゼス・マイモニデスの「症状の原因について」)⁽¹⁵⁾

「症状の原因について」の一九六二年に新しく発見されたヘブライ語訳手稿を中心として、ヘブライ語、アラビア語、ラテン語のそれぞれの手稿を比較検討した労作。ヘブライ語とアラビア語テキストは原文写真版を付し、ラテン語テキストは原文を載せる。アラビア語テキストは、クローナーの著作から引用されている。ヘブライ語テキストの英訳と、精密な注がつけられている。リーボウイツは、ヘブライ大学ハダサ医学校の医史学の教授であった。

(6) Rosner, F.: *Sex Ethics in the Writings of Moses Maimonides*, Bloch Publ. Co., 1974 (モーゼス・マイモニデスの著作における性倫理)

「交接について」のヘブライ語手稿の英訳、マイモニデスのその他の著書の性倫理に関する記載抜粋も含んでいる。

(二) ドイツ語訳

(10) H. Kroner: *Ein Beitrag zur Geschichte der Medizin des XII Jahrhunderts an der Hand zweier medizinischer Abhandlungen des Maimonides*, Bopfingen, 1906 (マイモニデスの医学論文二編に基づく一二世紀医学史への寄与)

小論⁽⁶⁾

この書は、書名に著作名を直接に記載することを避けているが、内容は「交接について」の、ヘブライ文字を用いたアラビア語テキストとヘブライ語テキストのそれぞれの訳で、綿密な注がつけられており、原文全文も掲載している。両テキストの内容は大きく異なり、バーセラがいうように二編とすべきであろう。リーボウイツによれば、訳者のクローナーはドイツの小都市 Bopfingen のラビであった。⁽¹⁵⁾

(三) 訳書が入手できなかったマイモニデスの著作

以上のようにマイモニデスの著作のうち、著者(泉)は左記の三種の現代語訳を入手できなかった。(1)は、現代語訳が公刊されていないようである。(2)は、イスラエルで現代語訳が公刊されている。⁽²⁾(3)は、別記する。

(1) 「ガレノス著書抜粋」

(2) 「ヒポクラテスの箴言注解」

(3) 「薬名集覧」

三、マイヤーホーフ (Meyehof, Max) とマイモニデスの著書「薬名集覧」

マイモニデスの著書「薬名集覧」は、イブン・アビ・ウサイビアが(薬を説明する本)と記載しているが、実在が確認されなかった。マイヤーホーフは、イスタンブールのアヤ・ソフィア寺院(現在博物館。アヤ・ソフィアはトルコ語。古典ギリシャ語 ハギア・ソフィア、中世ギリシャ語 アギア・ソフィア。意味はいずれも同じ「聖なる叡智」⁽²³⁾)蔵書の中からこの原本を発見し、その内容をフランス語訳を付して一九四〇年にカイロで公刊した。

マイヤーホーフの経歴をのべる。経歴・業績の詳細は、カガンの『ユダヤ医学』⁽²⁴⁾を参照されたい。

マックス・マイヤーホーフは、一八七四年、ドイツのヒルデスハイムに生まれ、ドイツで医学教育を受け、一八九八年、シュトラースブルクで学位取得、眼科医となった。一九〇三年から一九一四年までエジプトのカイロで眼科を開業、Kheivial Ophthalmic Clinicの主任医師。一九一四年、ドイツに帰国。一九二三年にカイロへもどり、眼科医として開業すると共に研究に従事した。一八九八年から一九四五年までの間に、三〇〇を超える眼科学と医史学の著書、論文を發表しており、その中にフナイン・イブン・イスハクの「眼に関する一〇の論文」の訳が含まれる。ヒトラーが擡頭す

ると引退し、一九四五年に死去した。

マイヤー・ホーフは、マイモニデスについて多くの研究を発表しており、関連論文を集めた著書“Essays on Maimonides” (マイモニデス論集) があるが、著者(泉)はまだ入手できないでいる。

四、誤ってマイモニデスの作と伝えられる他の著作、および不明のもの

マイモニデスが高名であったために、マイモニデス著作とあやまり伝えられているものがある。ロスナーは、医学書を含む次の書を挙げている。⁽⁶⁾ 句末の括弧内は、ロスナーによるヘブライ語訳名と、著者(泉)によるその邦訳である。「医師の祈り」(「医師のための日々の祈り」と呼ばれることが多い)が最初ドイツ語で発表されているなど、ヘブライ語訳名は必ずしも原典がヘブライ語テキストであることを示すものではない。

(1) Treatise on the one who exists (Sefer ha-nimtza 存在の書)
 「存在するもの」(the one who exist) は、旧約聖書で神が自らの本質を語っている文言で、この書は宗教上の著作だが、医学が含まれている。

(2) The nine chapters on the unity of god (Tishah perakim mi-yhud ユダヤからの九章)

(3) Treatise on eternal bliss (Pirké ha-hatziahah 救いの文書)

(4) Book of remedies (Sefer refuot 治療の書)

(5) The physician's prayer (Tefilat ha-rofé 医師の祈り)

(6) Last will and testament (Shaare ha-musar 伝言の残り)

(7) Scrolls of the unrevealed (Megillat setarim 秘密についての巻物)

(8) Letter on the messiah of Isfahan (イスフマハンの救世主についての手紙)

ガーシエンフェルトが、右記の(4)と共に挙げている

(6) (ア) Kitāb al-ashbāb wal-'alamāt (Causes and Symptoms) (原因と症状の本)⁽¹⁶⁾

も、現在マイモニデスの著作名にはないが、これがヴェステンフェルトの記載と同じものか、リーボウィッツが訳した手稿の別名⁽¹⁵⁾なのか、別の著作か不明である。

ゴーリンは、性科学書の中にも誤ってマイモニデスの著書とされているものがあるとしている。⁽¹⁹⁾

五、各著作の邦訳名試案と著作の内容

先にのべたように、マイモニデスの医学的著作名は、記載者によって多様である。このままではある特定の著作を示すのに不便なので、各著作の邦訳名試案を示した。この作業にあたって、次のような方法を取った。

(一) 著作の順番はパーセラにより、代表的な英訳名と邦訳名試案とを併記し、各著作の簡単な内容や成立過程を記載した。英訳名は必ずしもすでに挙げたものなので、邦訳は省略した。

(二) 邦訳著作名は、アラビア語名、ラテン語訳名を重視して作成した。

(三) 著作名に、書物 (ア) kitāb' (複) kutub' (ラ) liber' (ク) seler' 論説・論文 (ア) maqalā' risalā' (ク) ma'amar' (英) treatise' discourse' 小冊子 (英) tract' などの言葉が含まれる場合と省略される場合とある。たとえば「交接について」のアラビア語名は、Magalā fī al-Jimā'a (交接についての論説) だが、パーセラは Fī al-Jimā'a (交接について) としている。これらの言葉は、著作の規模を知るためには便利だが、邦訳名をできるだけ簡潔にするため、可能な限り省略した。

(一) Extracts from Galen or The Art of Cure

「ガレノス著書抜粋」

英訳名は(ガレノス抜粋)だが、意義を明確にするためヴェステンフェルト、ルクレールにならない、「ガレノス著書抜粋」とした。パーセラによれば、「The Art of Cure」はガレノスの著書の一冊の題名が誤り伝えられたもので、その内容は「モーゼス・マイモニデスの医学箴言集」にも多く引用されているという。⁽⁵⁾そのため、この訳名は採用しなかった。

(c) The Medical Aphorisms of Moses Maimonides

「モーゼス・マイモニデスの医学箴言集」

英訳名では、「The Medical Aphorisms of Moses」としているものもあるが、明確にした。

この著作は、一一八七—一一九〇年の間に編纂された。早くからアラビア語、ヘブライ語、ラテン語など多くの翻訳がある。

ガレノスを主として、ギリシヤ医学者、アラブ医学者の箴言を集めた著書で、二五章から成り、一五〇〇以上の箴言が含まれている。最終章第二五章は、ガレノスに対するマイモニデスの批判を集めたもので、一二〇四年、マイモニデスの死後、甥によって編纂された。

この書はしばしば、ヘブライ語訳名「Pirke Moshe」(モーゼの数章、またはモーゼの文書)で呼ばれる。Pirkeは、Perek(章)の複数形から来た言葉である。この書名は、タルムードの一部で旧約聖書外典の一つに数えられるピルケ・アヴォート⁽²⁷⁾などからの連想であろう。

(c) A Commentary on the Aphorisms of Hippocrates

「ヒポクラテスの箴言注解」

Moses ben Samuel ibn Tibbonによつて、一二五七年ヘブライ語訳された。

(4) Treatise on Sexual Intercourse, On Cohabitation or On Coitus

「交接についで」

微妙な言葉を用いるため、いくつかの英訳名がある。右記の第三の英訳名はラテン語訳名を意識したものであろう。邦訳は、医学用語として適切と感じられたものを選んだ。

この著作は、サラディンの甥で蕩児であった al-Muzaffar bun Nur al-Din ibn Ayyub の諮問に応じて書かれた。俗に「マイモニデスの性科学」として有名である。これに長短二編あり、前述のようにクローナーはその両者を訳している。⁽³⁾ 一般には、この両者がマイモニデスの著述であることが定説となっているが、クローナーの挙げているアラビア語テキストの内容は、マイモニデスの他の著作と非常に異なり、著者(泉)はこの著書全部がマイモニデス自身の手によるものか、多少の疑念を持っている。ただしこの疑念は想像にとどまり、手稿の検討の結果生じたものではない。

(5) *Treatise on Hemorrhoids*

「痔疾につらつ」

アラビア語名では(痔疾とその治療)となっているものもあるが、簡略化した。

ある貴人のために一一八七七ごろに書かれた。

(6) *A Discourse on Asthma or Treatise on Asthma*

「喘息につらつ」

この疾患にかかっていたサラディンの甥と思われる一貴人の要請に応じて、一一九〇年ごろに書かれた。

我が国では石渡隆司が、この書について昭和五八年に日本医史学会で報告した。⁽²⁸⁾ 石渡は邦訳名を「喘息論」としているが、語学的にはその方が正しい。

(7) *Treatise on Poisons and Their Antidotes or A Book on Poisons and the Protection Against Lethal Drugs*
「毒と解毒劑」

後の方の英訳名は、アラビア語名を意識したものだが、ここでは英訳刊本の名を邦訳名に用いた。

この書は、サラディンの宰相で、マイモニデスの庇護者であったカーディー（法官）・アル・ファードイルの求めによつて、一一八九年に書かれたものである。主要な内容は二つに分かれ、毒蛇などの咬傷に対するものと毒草などに対する対策をのべている。

(8) The Glossary of Drug Names or A Commentary on the Names of Drugs

「薬名集覧」

この本の内容と右記英訳名から、邦訳名を選んだ。

先にのべたように、一般にはこの原本はマイヤー・ホーフによつて発見されたとされているが、バーセラはリッター (Ritter) が発見したとしている。⁽⁵⁾ どちらが正しいか、著者には未詳である。この原本は、イブン・バイタルが書写したものである。

この書は、約二〇〇〇種の薬が四〇五のパラグラフに分けてアルファベット順に書かれており、薬名はアラビア語、ギリシヤ語、ペルシヤ語、ベルベル語、古スペイン語で書かれているという。

先にのべたように、著者はこの書の現代語訳を入手していないが、ロスナー訳の英訳本を野間科学医学資料館が入手したと聞いているので、機会があれば検討したい。

(9) The Regimen of Health or the Regimen Sanitatis

「健康の保ち方」

しばしば用いられる“Regimen Sanitatis”というラテン語訳名は、“Regimen Sanitatis Salernitanum”「サレルノ養生訓」⁽³⁰⁾からの類推であろう。その意味では「養生訓」と訳するべきかも知れないが、散文であり、「養生訓」の語感から想像されるものよりも学問的な内容なので、右のように訳した。

この(9)(10)は、サラディンの長男アル・アフダルの要請に応じて書かれたもので、そのことは両書の本文に明記さ

れている。写本には、両者が一括されている場合がある。しかしその内容は多少異なり、(9)が一般論として、(10)は個人的なアドバイスとして書かれている。

バーセラは、(9)はサラディンが死去した一一九三年からサラディンの弟サファディンがサラディンの息子たちから権力を奪った一一九八年の間に書かれたものとする⁽⁵⁾。

(10) A Treatise in Elucidation of Some Accidents and the Response to it, The Discourse on the Explanation of Fits, Concerning the Causes of Fits, Medical Answers (Responsa) or the Causes of Symptoms' (N) De Causis accidentium

「症状の原因について」(または「発作の原因について」)

この書は、心身症とうつ状態の傾向を持っていたアルアフダルが、自分の受けている治療についてマイモニデスに送った質問状へ、マイモニデスが回答した手紙を集めたものである。

邦訳がもつとも決定困難なのは、この著作であった。最初の英訳名は、バーセラがアラビア語名の訳として記載しているが、彼はこの著作の原史料には表題がなく、アラビア語名は後世のもので、意味も著作内容と異なるので疑念をもつ。しかし一般に流布しているので、やむを得ずこの題を用いるとのべている⁽⁵⁾。

一方ラテン語訳名は、このアラビア語名とは別の史料から来ている。一般にこのラテン語 *accidentium* (単数主格 *accidens*) は英語の *accident* と同じに理解されているが、ラテン語の *accidens* には症状の意味があり、リーボウィッツはそのように英訳している⁽¹⁵⁾。著者もこの見解に同意し、右のように訳した。ただし最初の英訳名が一般に流布しているという点を重視すれば、邦訳名も「発作の原因について」としなければならぬかも知れない。

前述のようにあるヘブライ語訳の題名は(特別な質問への答え) という意味であり、これから “Medical Answers (Responsa)” (医学質疑集(レスポンス)) という別名が生まれた。レスポンスは、本来は諸国の信者から送られた質問状

に対するユダヤ教の権威あるラビの返書を集めて公刊したものをいうが、この別名は、宗教上の権威であるマイモニデスを、医学上でもそのラビの立場になぞらえたのであろう。ヨーロッパでも、このような質問に答える手紙を集めた形の医学書があり、*Consilia*と呼ばれた⁽³¹⁾という。「医学質疑集」(レスポンサ)という書名はこの著書の性質を反映しているが、主題が明らかでないので一般には使われないようである。

パーセラは、この書が書かれた年代は不明で、少なくとも「健康の保ち方」の後であり、アルアフダルが王位を追われた一八九八年以後としているが、発表されたのは一二〇四年としている文献が多い。⁽³²⁾

六、思想的・宗教的著作における医学的事項の記載

マイモニデスの医学以外の著作にも、医学に関する記述があることを各研究者が記載している。著者は、マイモニデスの思想史上の三大名著のうち、『迷える者への導き』しか入手していないので、これらの文献を入手した上で報告したい。三大名著のうち、『ミシユネ・トラ』については、ロスナーによって研究書が公刊されている。⁽³³⁾

七、マイモニデスの医学的著作の使用言語の訂正

マイモニデスは医学的著作をアラビア語で書き、文字はヘブライ文字を用いた。著者は、これを前稿で「マイモニデスはユダヤ・アラビア語で書いた」と表現したが、ヘブライ大学のコテック教授 (Kotték, Samuel S.) の教示により、これが誤りで「マイモニデスはアラビア語をヘブライ文字で書いた」としなければならぬことが判明した。⁽³³⁾ すなわちマイモニデスは、日常用語となっているアラビア語の一方言、ユダヤ・アラビア語で書いたのではなく、正統なアラビア語をヘブライ文字を用いて書いたのである。なぜヘブライ文字を用いたかは不明である。

謝 辞

貴重なご教示をいただいたへブライ大学ハダサ医学校 Samuel S. Kottick 教授に深謝する。

注一 Ibn al-Baitar (イブン・バイタル) Dhīyā al-Dīn bun al-Baitar (ダイヤー・アッ・ティーン・ブン・ル・バイタル) または Abu Muhammed Abdallah Ben Ahmed Dhīja ed-Dīn el Malaki Ibn el-Baitar (アブー・ムハンマド・アブドゥッラー・ブン・アフマド・ティヤー・アッ・ティーン・アル・マラキ・イブヌル・バイタル)。(8)
 (11) 有名なアラブ生物学者、薬学者。スペインのマラガに出生、エジプトに移住、ギリシヤ、小アジアにも旅行、シリアのダマスカスでスルタンからエジプトにおける首席生物学者に任命された。スルトンの死後、一旦カイロへ行つたが、再びダマスカスへ帰り、イスラム暦六四六年(西暦一二四八年)にそこで死去した。多くの著書がある。

参考文献

- (1) 泉 彪之助「モーゼス・マイモニダスの生涯」『日本医史学雑誌』四四巻一、二、三号、一九九八年
- (2) Rosner, F.: Moses Maimonides the Physician. 3-12 in Rosner, F. & Kottick, S.S. (ed.): Moses Maimonides, Physician, Scientist, and Philosopher. Jason Aronson Inc., Northvale, New Jersey and London, 1993
- (3) H. Kroner: Ein Beitrag zur Geschichte der Medizin des XII Jahrhunderts an der Hand zweier medizinischer Abhandlungen des Maimonides, Oberdorf, Bopfinger, 1906
- (4) Rosner, F.: Sex Ethics in the Writings of Moses Maimonides, Bloch Publ. Co., 1974
- (5) Bar-Sela, Ariel et al.: Moses Maimonides' Two Treatises on the Regimen of Health, Trans. Am. Philosoph. Soc. New Series 54(4): 3-50, 1964
- (6) Moses Ben Maimon (Maimonides), translated by Gordon, H.L.: The Preservation of Youth, Philosophical Library, 1958
- (7) Marcus, Rebecca B.: Moses Maimonides, Franklin Watts, Inc., 1969

- (8) Ibn Abi Usabiah: 'Uyūn al-anbā' fi tabaqāt al-atibbā' (イブン・ヌビユ・ウサイヒヤ『医師の階層についての情報の泉』一四〇一年 複製第三版) 一九八一年
- (9) Ibn al-Qifti, Ta'rikh al-hukama (イブンヌル・キンナヤ『宰相年代記』)
- (10) Ibn al-Nadim, Kitāb al-Fihrist (イブン・ナディム『四庫書』)
- (11) Wüstenfeld, F.: Geschichte der Arabischen Aerzte und Naturforscher. Georg Olms Verlag, Hildesheim, 1963 (Original: 1840, Göttingen)
- (12) Friedenwald, H.: The Jews and Medicine, Vol. I, 193-216, KTAV Publ. House, 1967 (Original: The Johns Hopkins Press, 1944)
- (13) Leclerc, L.: Histoire de la Médecine Arabe. Burt Franklin, New York, 1970 (Original: 1876, Paris)
- (14) Steinschneider, M.: Die Europäischen Übersetzungen aus dem Arabischen bis Mitte des 17. Jahrhunderts, Akademische Druck- u. Verlagsanstalt, Graz, 1956
- (15) Leibowitz, J.O. and Marcus, S. (ed.): Moses Maimonides on the Causes of Symptoms, Univ. Cal. Press, 1974
- (16) Gerstenfeld, L.: Moses Maimonides-Physician and Author of Medical Works. J. Am. Pharm. Assoc., 25(5):440-447, 1936
- (17) Moses Maimonides, transl. and ed. by Muntner, S.: The Medical Writings of Moses Maimonides, Vol. I, Treatise on Asthma. J.B. Lippincott Co., 1963
- (18) Moses Maimonides, transl. and ed. by Rosner, F. & Muntner, S.: The Medical Writings of Moses Maimonides, Vol. III, Treatise on Hemorrhoids. Medical Answers (Responsa). J.B. Lippincott Co., 1969
- (19) Moses Maimonides, transl. and ed. by Gorlin, M.: Maimonides "Sexual Intercourse", Rambash Publishing Co., 1961
- (20) Moses Maimonides, transl. and ed. by Muntner, S.: The Medical Writings of Moses Maimonides, Vol. II, Treatise on Poisons and Their Antidotes. J.B. Lippincott Co., 1966
- (21) Moses Maimonides, transl. and ed. by Rosner, F. & Muntner, S.: The Medical Aphorisms of Moses Maimonides. Vols.

- I & II. KTAV Publ. House and Yeshiva University Press, 1973
- (22) Maimonides' Medical Writings 2. Maimonides' commentary on the aphorisms of Hippocrates. (Translated and annotated by F. Rosner), The Maimonides Res. Inst. Haifa, 1987. W・ホブシュタイン著 梶田昭訳『新約聖書とタルムードの医学』時空出版、一九九〇年、より引用
- (23) 益田朋幸『地中海紀行 ビザンティンとイスラエル』、東京書籍、一九九六年
- (24) Kagan, S.R.: Jewish Medicine. Medico-Historical Press, Boston, 1952
- (25) Meyerhof, M.: Essays on Maimonides. Columbia University Press, 1941
- (26) Rosner, F.: Remarks on Eight Pseudo-Maimonidean Treatises. 175-184 in Rosner, F. & Kottek, S.S. (ed.): Moses Maimonides, Physician, Scientist, and Philosopher. Jason Aronson Inc., 1993
- (27) 左近淑他訳『聖書外典偽典第三巻 旧約偽典一』、教文館、一九七五年
- (28) 石渡隆司「モーゼス・マイモニデスの『喘息論』について」日本医史学雑誌二九巻二号、一二五頁、一九八三年
- (29) Moses Maimonides, translated from Max Meyerhof's French edition, and edited by F. Rosner: Glossary of Drug Names, American Philosophical Society, 1979
- (30) Harrington, J.: The School of Salerno, Paul B. Hopper, 1920
- (31) Sudhoff, 1922. cited by Ref. (15)
- (32) Rosner, F.: Medicine in the Mishneh Torah of Maimonides. KTAV Publishing House, Inc., 1984
- (33) Kottek, Samuel S.: Personal communication

(老人保健施設 陽翠の里)

Medical Writings of Moses Maimonides: an Overview

Hyonosuke IZUMI

Considering the descriptions by former researchers, the author intended to make an overview of the medical writings of Moses Maimonides. Among them, ten extant works on medicine have been authenticated. One of them, “On Cohabitation,” is composed of two treatises; a longer and a shorter one. Meyerhof discovered the text of “The Glossary of Drug Names,” which had been known only through the description by Ibn Abi Usaibia, in the library of Aya Sophia Temple in Istanbul. The author proposed a standard Japanese translation of names of medical writings. Some medical and religious writings, including “The Physician’s Prayer,” were falsely attributed to Maimonides. Maimonides wrote his medical works in Arabic with Hebrew characters.